

2021年10月27日 緩和ケアセンター 抄読会

慶應義塾大学医学部 外科学（一般・消化器）

久岡 和彦

Identification of Palliative Care needs in cancer patients in a Surgical Emergency Centre

J Pain Symptom Manage. 2021 Sep 9;S0885-3924(21)00520-0.

【背景】

進行癌は重篤な症状を伴う。適宜緩和ケアの必要性を把握し、適切な緩和ケアを提供することで、治療成績の向上、医療費の削減、そして患者と家族の治療に対する満足度の向上が期待できる。緩和ケアの必要性を特定する方法は、さまざまな臨床環境や患者層で使用されている。本研究は、南アフリカの the surgical emergency center (SEC)に入院した癌患者における、緩和ケアを必要とする患者割合と、関連する特性を明らかにすることを第一の目的とした。また副次目的として、緩和ケアを必要とする患者と早期死亡との関連性を検討した。

【方法】

外科的緊急疾患のために SEC に入院し、既知の悪性腫瘍を有する全ての患者を対象とした横断的な観察研究である。入院患者に、Supportive and Palliative Care Indicators Tool (SPICT™)を適用し検証した。また、主治医は Surprise Question (SQ) に返答し、患者の1年生存確率を推定した。

【結果】

112名の入院患者を対象とし、年齢の中央値は58歳であった。SPICT 陽性の患者割合は全体で52名(46.4%)となり、転移性患者では69.2%であった。SPICT/ SQで定義された緩和ケアを必要とする患者割合は、46.4%/54.7%であった。症状では疼痛が最も多く、診断では腸閉塞が最も多かった。SPICT 陽性は、退院前の死亡および初回入院から6ヵ月以内の死亡の有意な予測因子であった。緩和ケアの必要性を予測する上で、SPICT と SQには関連性があり、一致率は71.6%であった。

【考察】

緩和ケアを必要とする患者は、SECの癌入院患者の中で多くの割合を占めていた。本研究では、外科的治療の一環として統合的な緩和ケアと終末期ケアを提供するために、職員と環境への投資が必要であることを明らかにした。SPICT と SQは、このコホートにおける早期死亡を予測することが示された。低資源環境で費用対効果の高い緩和ケアサービスを実施するためには、緩和ケアの必要性の評価方法のさらなる検証が必要である。